



くらしを
ポク

山城 紀子

▷11

日替わりで飲み物提供

しらゆりの園で1枚の張り紙が目にとまった。10時の飲み物。毎朝10時に利用者に出す日替わりの飲み物メニューである。月曜日は紅茶、火曜日はしょうが湯、水曜日はホット・レモンという具合だ。水分不足になりがちな利用者にとすればたくさん水分を摂ってもらえるか。日替わりのドリンクはその工夫の一例である。指導を受けている竹内孝仁国際医療福祉大学大学院教授が胃ろうから常食に戻す条件としてまずあげるのも水分。最低でも2200ミリの水分が必要だという。

「水分が足りない」と覚醒(目をさますこと)レベルも低下

胃ろうから常食へ ③

| | |
|------------|---------|
| 10:00の 飲み物 | |
| 月曜日 | 紅茶 |
| 火曜日 | しょうが湯 |
| 水曜日 | ホット・レモン |
| 木曜日 | ミルクココア |
| 金曜日 | コーヒー |
| 土曜日 | 紅茶 |
| 日曜日 | お茶と黒糖 |

※第1月曜日はお楽しみドリンク日です。
※水分をたくさん飲んでたくさん笑って体を動かしてはーえーごんごん☆

する。また水分を十分とって脳が覚醒していることが尿意、便意にもつながることを教わった。しかし、なかなかお茶や水という形で大量の水分を摂らせることはできない。じゃあどうすればいい。ここのと天山朝文・運営部長は話す。最初は1300ミリをx2ドに水分を摂ってもらうようにし、徐々に量を増やしていった。お茶として飲ん

でもらえるのはせいぜい400ミリぐらいなので毎朝10時には日替わりドリンクを提供し、3時のおやつとして寒天ゼリーを食べてもらうようにするなど利用者が心地よく水分を摂るように心がけた。基本ケアの一つである運動量を増やすのも簡単なことではなかった。歩き方の足の運びを忘れていた利用者もいる。そういう場合は歩行器歩

行を介護職員が2人がかりでサポートした。背筋は伸びているか。足は上がっているか。歩き方の様子などをチェックし、短い時間でも回数を増やすことをモットーにした。取り組んで1カ月余りで変化は出た。ミキサ食の利用者がゼリー食に、ゼリー食の利用者がキサミ食へとという具合に食形態がレベルアップし、2月18日時点では70人中41人だった常食は48人になり、胃ろうの利用者も9人から7人になった。常食率は58.6%から68.6%に上昇している。

水分をたっぷりとってもらうため、日替わりドリンクを提供している。月に1度は市販の清涼飲料水を出しているが、コーラがなかなか人気だとか

目に見えて変わってきたのはそのころまでで、明らかに停滞期に入っていた。これ以上は難しいのでは、との声も聞けるようになった。そういう悩みを職員同士で話し合う中で「外食に行ってみようか」との意見が出た。施設長に計画を話した。友名孝子施設長は「行きましよう。胃ろうの方が外で食事をするのはできないの? そうではないでしょう。やりましよう」と施設のトップとして全責任を負う決意を示したという。

北部支社
TEL:0980(53)3717
FAX:0980(51)1196
MAIL:hokubu@~

中部支社
TEL:098(939)1187
FAX:098(938)5169
MAIL:tyubu@~

宮古支局
TEL:0980(72)2034
FAX:0980(73)0894
MAIL:miyako@~

八重山支局
TEL:0980(82)2104
FAX:0980(84)1107
MAIL:yaeyama@~

@以下は
okinawatimes.co.jp

1日2200ミリの水分必要

「ランチを食べに行こう!」の計画が進められることになった。参加する利用者は7人。食形態は超キサミ3人、ゼリー食3人、胃ろう1人。付き添う職員は施設長はじめ介護と看護の職員、栄養士など10人。介護課長の仲村渠紀希さんは「無理はしないでおこうとか言い合ったりしました。大丈夫だろうとは思いつつも外食に連れ出すことへの不安の声を聞くと、自信が持てない気持ちにもなりましたね」。昨年3月18日、ポカポカの好天気の中ランチを食べにおきなわワールド文化王国・玉泉洞に向かった。(フリーライター)